

助成事業実施報告書

団体名 みんなの居場所「ぼあんの樹」運営委員会

代表者・役職名 氏名 会長・糸長紀子

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

ぼあんの樹 ぱんだハウス

2. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度

毎週木曜日 14:00~17:00 に開催。

放課後居場所にやってきた子どもたちは、各々宿題を済ませることを習慣づけ、学習支援のスタッフがわからないところなどの支援を行いました。宿題が終わった子からスタッフ手作りのおやつを食べ、そのあとは外で体を動かし元気に遊んだり、スタッフとおしゃべりを楽しむなど自由に時間を過ごしていました。校区担当のSSWの先生との繋がりを持ち、気になる子に対する配慮も行いました。また、月に1度のペースでひとり親家庭の支援ということでフードパントリーを開催しました。

3. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度

【結果】実施回数: 43回/参加人数(子ども)505人 (スタッフを含む大人)221人

【成果】学校の中に居場所がない子にとっての居場所となったようです。フードパントリーを開催したことにより、ひとり親家庭で子育てと家庭を支えていかなければいけない母親にとって、食料品を提供してもらっただけではなく、スタッフとの関わりの中で生まれてきた信頼関係により、自ら心の内を話してくれるようになり、子どもだけではなく、ひとりで家庭を支えている方にとっての「心の居場所」にもなってきたように思います。

【社会的な変化などの効果】2016年より「子どもたちが心豊かに過ごせる場所」ということでの居場所を作ってきましたが、そのことが小中学校をはじめ地域にも知ってもらえるようになり、支援が必要な子どもに「ぼあんの樹」の情報が届くようになりました。

4. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字程度

子どもたちの様子を見ていると、開催回数を増やしていきたいという思いがありますが、スタッフの年齢も上がってきており、スタッフ自身が親の介護などで時間の都合をつけるのが難しくなってきていることと、子どもたちと年齢が近い大学生のスタッフがいると良いのですが、時間の都合で長期での依頼が難しいことが課題として挙げられます。SSWの先生を通して地域の小学校、中学校と繋がり、支援を必要としている子どもに寄り添い対応していけるよう、スタッフが子どもの権利や現況について研鑽を積んでいきたいと思っています。

5. 参考資料

プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等のデータ。活動の様子がわかる写真などを必ず別途ご提供ください



みんなの居場所 ほあんの樹

第6号

2023年3月

「ほあんの樹」は、『地域の子どもたちが好きな時間に来て、思い思いに過ごせる場所』『子どもだけでなく、多世代が過ごすみんなの居場所』です。どなたでも気軽にお越しください。



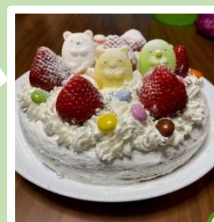
新聞紙をちぎって
温泉を作った
つもりが…
プールでの水遊び
になりました。



卓球や
バドミントンに
鬼ごっこ！
身体を動かす
こと大好き
です。



なが〜い・なが〜い
“はらぺこあおむし”
折り紙 300 枚使
いました！



子どもたちが
デコレーションした
クリスマスケーキ。
可愛くできました。



宿題…簡単！簡単！
でもなかなか終わ
りません。

『ほあんの樹』について…

★ぱんだハウス(福岡市東区箱崎 2 丁目 7-3) では、
毎週木曜日の 14:00~17:00 の時間、
放課後の 子どもたちの自由な居場所として開放しています。

※コロナの感染拡大の状況やその他の事情により
開催日や時間に変更になることがあります。

★『ほあんの樹』は「福岡市子どもの食と居場所づくり支援事業」
「真如苑 子ども食堂支援助成事業」に採択され運営しています。

